

『言い広めなさい』(ルカの福音書 8章 34-39節) 2022.10.23.

<はじめに> 伝道・宣教と言われると、特別に訓練された人やそれに向いた人がすることのように感じている人は少なくないと思います。この聖書箇所のお話ではどうでしょうか。39節のイエスのことばを心に留めながら、26-39節のお話を読んでみましょう。

I ゲラサ人の体験談(26-39)

① その頃、私は・・・

長い間、服を身に着けず、家ではなく墓場に住んでいました。「レギオン」と名乗る悪霊・汚れた霊が私を何回も捕らえていたからです。私は鎖と足かせに繋がれて監視されていましたが、それらを断ち切っては、悪霊によって荒野に駆り立てられていました。

② しかし、イエスは・・・

舟で私の住むところに来られ、汚れた霊に私から出て行くように命じられました。すると悪霊どもはその地に飼われていた豚の群れに入ることを懇願し、イエスは許されました。悪霊は私から出て豚の群れに入り、豚は湖で溺れ死に、私は正気に返ることができました。

③ 今、私は・・・

悪霊が去り、イエスの足もとに服を着て座っています。彼の変貌ぶりを見た人々は驚き恐れしました。私はイエスと一緒にいたいと願いましたが、イエスは神が私にしてくださったことを人々に話して聞かせるよう願われ、私は町中にそのことを言い広めています。

II 神が自分にしてくださったことを(39)

① 自分の体験と実感

ゲラサ人の彼にとって、この出来事は生涯の一大転機でした。自分の体験は、誰よりも逼真に満ちて話せます。自分のどんなことを話しているでしょう。経験した出来事とともに、その中で自分がどう感じ受け留めているかを交えて話します。

② 「神」が主語のお話

イエスが彼に話すようにと言われたのは、自分の経験の中で神が関わってしてくださったことです。イエスに出会って、彼の人生は一変しました。日々の生活の中でイエスが働いておられ、聖書が語る事が本当だ、と実感するとき、証しが生まれます。

③ 話して聞かせなさい

「こんなことがあったんです」と自分の身近な人、話せそうな人に率直に話すことから始めてみましょう。教えたり、解説する必要ありません。自分でも不思議に思っているなら、そのまま話します。聞く人たちの反応や応答を迫る必要ありません。

III 証し人の特権と祝福

① お供をしたいと願った(38)

彼の人生は一変されましたが、不安もあったでしょう。また悪霊に取りつかれはしないか、町の人々は自分を受け入れてくれるのだろうか、等々。イエスと同行すれば、自分も守られると思ったのでしょうか。しかしイエスには別の思い・考えが彼にありました。

② 彼にしかできないこと(37-38)

町の人々は挙ってイエスをこの地から追い出そうと願い、止む無くイエスもそうされます。しかし彼は追い出されてはいませんから、イエスは彼にこの地の人々への証しを任せました。その人にしか近づくことのできない人々があります。私にとっては誰でしょうか。

③ 神と共に生きる

イエスの願われたとおり、イエスが自分にしてくださったことを話す度に、彼はイエスをより身近に、また新しく感じられたでしょう。お供はできませんでしたが、彼はイエスと共に生きていました。イエスを証しすること、聖書を生きる時、神は私たちとともにおられます。

<おわりに> イエスに出会い、変えられた人には、話して聞かせる物語が与えられています。もう一度それを取り上げてみませんか。身近な人に、機会があるたびに、神が私にしてくださったことを私らしい語り方で話すことを、主は期待されています。(H.M.)